



# 友垣よ

練馬区立石神井西中学校だより  
令和六年十二月十日 第九号(第二十号)  
校長 井上 貴推

## 「面接」は綿密な準備が必要です

今、3年生の諸君と進路決定に向けた「面接」をしています。受験(都立高等学校以外)は「受験」のための練習という側面もあります。保護者の皆さんはすでに御経験をされている方が多いと思いますが、人生の節目節目で必ず誰もが経験する「面接」について思うことを書いてみようと思います。3年生はもちろんです。1、2年生もいずれば経験する面接。どんな準備が、そして心構えが必要なのでしょう。考えてみてください。

### 1 「面接」の目的とは？

都立高等学校の入試関連の資料では、面接の目的を「受検者の出願の動機・理由、興味・関心、適性、規範意識や自己PRカードの記載内容、中学校における諸活動の状況やリーダーシップ、将来の進路希望等を確かめたり、質問の内容を的確に把握し適切に回答する能力や表現力等を見たりするとともに、これまでの経験を今後の高校生活に生かせる力があるかどうかなどを評価する。」としています。このように列挙されると分りにくいですが、大別すると評価項目は「内容」と「能力」に分かれ内容はさらに、①その学校を選んだ理由、②中学校のときの活動、③高等学校卒業後の進路の三つに、能力では①質問に正対した答えでできるか(聞く力)と②適切に表現できているかをみるという二つになります。

ですから、大きく分ければこの五つについて事前準備をしておけばおむね面接対策ができています。

### 2 「内容」で準備しておくべきこと

#### ① 受検する高等学校を選んだ理由

最も大切なことは、面接官を「なるほど。それでうちの高校を選んだのか。」と納得させることです。面接練習のとき、「学習と部活動を立派

に両立させている先輩が多いから」とか「雰囲気自分が合っていると思ったから」という答えをよく聞きますが、それでは面接官を納得させることは難しいといえるでしょう。「それならうちの学校でなくても良いのではないか」と思われてしまうかもしれません。受験(験)校のことをよく調べ、校訓や教育目標、あるいは特色ある教育活動やカリキュラムなど、その高等学校の個性を簡潔に述べるのが肝腎です。

#### ② 中学校のときの活動

最も答えやすい質問だと思えますが、ポイントは「リーダーシップ」です。実際のリーダーではなくとも、リーダー的な役割を担った経験を成果とともに答えられるようにしておく必要があります。

#### ③ 高等学校卒業後の進路(なりたいたい自分の姿)

高等学校には、それぞれスクールミッション(どのような生徒を育てる役割があるか)があります。それは卒業生の進路にはっきりと表れます。各校はそれに合わせてカリキュラムを組んでいます。当然そのカリキュラムに合った生徒に入学してもらいたいのです。ですから、卒業後の進路について、明確ではなくても、その学校は何を目指してどんな生徒に入学してもらいたいと望んでいるか、それを考慮に入れた自分の進路の展望を語ることでできるようになっておきたいものです。都立高等学校の場合は、「本校の期待する生徒の姿」にその願いが載っています。必読ですね！

### 3 面接前に身に付けたい「能力」は

#### ① 質問を聞き、きちんと正対した答えをするためには！

どんな質問をされても慌てないことが大切です。分らなければ「もう一度お願いします」。パツと答えが出なくても「少し考えさせてください」と言えることが大切です。すぐに答えなければならぬと思わないようにしましょう。

#### ② 適切な表現をするためには！

ポイントは、「少ない言葉で結論を先に述べる」ことに尽きます。答えが長くなると、最初はそのことを話していたのに徐々に話がずれていってしまいます。「短く！はっきり！」答えるのがコツです。